

2012年10月15日
テオリア第1号
 定価 350円
 毎月10日発行
 定期購読料
 年間 4000円
 半年 2000円

θεωρία
テオリア

発行 研究所テオリア
 東京都千代田区内神田1-17-12
 勝文社第二ビル1階
 TEL&FAX 03-3230-3639
 ホームページ
 http://theoria.info
 E-mail: email@theoria.info

研究所テオリア発足記念シンポジウム開く

グローバル資本主義への対抗運動めぐり議論



9月22日

**研究所テオリアが
 発足総会&シンポ**

計画、名称案、予算案、会則案、人事案についての提案。続いて、新事務所についての報告が行われた。討論では、テオリアの今後の活動などについて議論が行われ、出席者からは、「世界の枠組みをどう返す」「隅っこでがんばる」などの意見表明が行われた。最後に名称をテオリアに

9月22日、研究所テオリアが発足総会と発足記念シンポジウムを都内で開いた。22日午後は、「研究所テオリア」発足記念シンポジウム「グローバル資本主義の行方とグローバル対抗運動の課題」を開催した。

最初に吉田和雄所長から主催者挨拶。「ホームレスの人に居場所を作るNPOもやっていて、新しい施設を開こうとしているが、地域住民の偏見があつてなかなか移れない。一方で、官邸前にかけている市民がいる。市民・住民の意識と最先端で社会を変革しようとする人の関係はどうなのか。どういう主体になっていくのか。たまには日常と離れているようなことを勉強し、混ざり合って議論ができれば」と

続いて司会の中村勝己さん(20世紀イタリヤ思想史)がシンポジウムの問題意識について、「リーマンショック以降、世界全体が厳しい。日本社会も毎年3万人以上が自殺するように、社会の解体状況が進んでいる。日本では3・11以降のさらに厳しい状況がある。今後の日本の政治・社会のあり方私たちの生き方が問われている」

報告(2人の報告は2〜5面に掲載)。パネリスト2人の報告を受けて質疑応答を行い、様々な意見・質問が出された。発足記念シンポジウムに先立ち、午前には「研究所テオリア」発足総会が開かれた。滝川一郎の司会で進められ、準備委員会から研究所発足にいたる経過の報告、研究所テオリアの事業、発足した。

**講座テオリア第1期講座
 「シリーズ・グローバル資本主義の行方」**
 予習講座 11月21日(木)午後6時半
 会場 テオリア事務所 一般500円
 本講座 「グローバル資本主義の行方」(仮) 第1回
 12月19日(予定) 午後6時半
 講師 森田成也さん(マルクス経済学者)
 会場 文京シビックセンター(予定)
 参加費 一般千円/会員500円
 主催 研究所テオリア

研究所テオリア入会を
 研究所テオリア会費
 ○特別会 員・10年6万円
 ○研究会 員・10年1万2千円
 ○サポーター会 員・10年間6千円

新聞テオリア定期購読を
 一般購読定期購読料金
 年間 4000円/半年 2000円

紙面紹介
 シンポジウム・田原牧報告……………2〜3面
 シンポジウム・白井聡報告……………4〜5面
 講座テオリア開講のお知らせ/研究所テオリア参加の呼びかけ……………6面
 「共産主義の理念」をめぐって……………7面
 福祉の現場から/原子力規制委員会……………8面

「研究所テオリア」発足記念シンポジウム

グローバル資本主義の行方とグローバル対抗運動の課題

「革命」の再定義と生きるための永遠の叛逆

田原 牧さん

東京新聞特報部記者



2010年代の革命とは

昨年1月、チュニジアで独裁政権が倒れた。2月、アラブで一番大きな国エジプトで独裁政権が倒された。そのちょうど1月後に東日本大震災が起きて、翌日福島原発事故が起きる。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。



その後、言葉が古いが、アラブも一年経った。生身の人間の運動だから、ずっと調子がいいわけではない。脱原発の運動も、そろそろ大きな壁に突き当たっている。これからどうしようか頭を痛める。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

革命の三点セットがない革命

昨日、山場を予測して休みを取ってエジプトに行ってきた。偶然当たり、ムバラク政権が倒れたときに、タハリール広場の脇にいた。その後のお祭り騒ぎを渦中で見ていた。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

「命を革める」

今日はゴリツとした活動家風の人20人くらいいて、挑発するような話をすればいいと思ってきたら

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

（笑い）、大分違って土曜日の下がりのほんわかした雰囲気だが、ゴリツとやっていた。2010年代に語られている革命はどのような内実なのか。イメージするのはロシア革命、中国革命、70年代のインドシナ革命。イランでイスラム革命が起った。甘い評価でも、うまくいったとは評価できない。

ういう現象としてとらえた方がいい。「革命」とは、社会科学的に解釈するよりも、文学的に解釈したいと思っている。革命は「命を革める」。私は権力問題よりも、命を革めることをより重んじている。

エジプトでは青年たちの未熟さもあり、ムスリム同胞団というイスラム主義組織が権力を握った。青年たちの視座に立てばこれもひっくり返さないといいない。未だに権力の最大の実態である軍も、何らかの形で覆さないといいない。永遠に権力を覆すことが必要。青年たちが権力を取れば、おそらくまた抑圧的なものになると想像される。

それをまた誰かがひっくり返していけばいい。その精神、気分、構えといったもの、社会的な土壌が必要。その土起しのために2010年代はあると楽観的に考えている。

と温かくなるような場所を涵養することが今は大切。アラブにしても、福島に連なるものにしても、そ

る。昔からある反体制野党共産党もいれば、現在の青年世代もいる。最後に勝ち馬に乗ろうと出てきたムスリム同胞団もいる。行動調整委員会のような形態で結びついているだけ。互いに自重し、行儀よく立ち回るという努力は見られた。

ムバラクというのは私から見るとぬるい独裁政権。世代的には私もそっちに分けられるが、アラブ民族主義。アラブ民族主義は反帝国主義・民族独立、反シオニズム。体制、反体制を超えて、これまで王政を除く全てのアラブの国がそう。王政を含む全ての国が反シオニズム。独裁政権だけではなくて、50年代、60年代に地域を牽引したアラブ民族主義もいらない。アラブの反政府運動では、これまでは必ず反シオニズム、パレスチナ連帯のスローガンが出てきた。それで自分たちを一定正当化しようと、これまでではなかった。そういうスローガンもない。

世襲を含めて今の独裁政権を倒す。その前は「おまわりの横暴を許すな」というような話。世代間の断絶のようなものがあつた。もちろん各世代に少数派の人はいらるが、30代半ば以上の大多数は「ムバラクはもう辞めろ」といっているんだから、いじめなくてもいいじゃないか。ムバラクとはいえ、かすかに掲げ続けているアラブの大義のようなものを大切にしよう。国が乱れるとイスラエルに対す

る脅しも効かなくなるという人が、インテリを含めて多かった。逆にそれ以下の世代は、生まれたときからムバラク政権。彼らからすれば「アラブの大義」と言っても何もしていないのだから、いらぬ」と。正確に言うところ、何もしていないということも無い。エジプトという国は経験のリアルさはない。

私は「タハリール共和国」と呼んでいたが、タハリール共和国に集まる人々の掟のようなものがあつた。私はエジプトに5年近く住んでいた。これは象徴的な話だが、下町の路地を歩いてるとき、慣れている住人はちょっと上目遣いで歩いてる。なぜかというところ、両側のアパートの上階から、ほうきで掃いた部屋のゴミを窓から捨てる。みんないけないことだと知っているが、当たり前にある。下向いて歩いてるといつかぶるから分らない。

ところが、タハリール広場では自主的に掃除を始めた。特にムバラクが退陣した翌日は大挙して掃除している。最初は同胞団の動員でやっていると思ったら、全然そうではない。本当に自主的にやっている。わざわざ掃除のために駆けつけた人たちもいる。自分たちの意識、生活を根本から変えるひとつの文

パレスチナ以上にイスラエルとの戦争で人が命を落としている。イスラエルとの問題は理念的なパレスチナ連帯ではなく、エジプト民衆にとって我がことだった。それでもイスラエルとの最後の戦争が1973年。生まれた人も40歳くらいになる。その世代に戦争経験のリアルさはない。

文化革命。エジプトは痴漢とスリと横入りは必ずどこでもあつた。ところが、タハリール広場は人がひしめいていたが、痴漢とスリと横入りはなかった。つまり、独裁政権下の旧来の自分たちも変えないといけない。変わった自分たちが権力を持つという意識をどのグループ、政治傾向がある人たちも持っていた。

それから、世界の中で自分たちがどこにいるのかという危機感が若い人にはあつた。エジプトの青年たちは、流れが速い世界にいる。世界から見放されて、誰も振り向いてくれないという引きこもり感が強かった。ところが、自分たちがデモをしたら、世界中で中継されて、世界の話題になる。チュニジアに刺激されてデモをした。彼ら自身が言っていたが、当初はそんなに練習して何かをやるよう、これから政権を打倒しようでは

ない。「ちょっとやってみっか」というある種の遊び感覚が強い。

界との一体感を確認するところが、霧困気が非常に色濃かった。

最後に、そんなにいい加減なことを思いつくなら、すごいことを言うなと非常に印象深く記憶に残っているところがある。ムバラクが倒れて、広場でも次の大統領を誰にするかという話になる。聞いてみると、いろいろな名前があがった。先日死んだが長年治安長官をやっていたムバラクの懐刀のズレイマンという副大統領がいた。若い人が「ズレイマンでいい」と言う。私が「ズレイマンじゃ同じじゃん」というと、「あいつが懲りてなくて、また悪いことをす

た。最初に大きな行動があった1月25日は「警官の日」、おまわりさん感謝デー。それはしゃれっ気。何がおまわりさんに感謝だ、ふざけるなど。身近な課題から世界とながら、世界がエジプトを見てまねをする。世

界との一体感を確認するところが、霧困気が非常に色濃かった。

最後に、そんなにいい加減なことを思いつくなら、すごいことを言うなと非常に印象深く記憶に残っているところがある。ムバラクが倒れて、広場でも次の大統領を誰にするかという話になる。聞いてみると、いろいろな名前があがった。先日死んだが長年治安長官をやっていたムバラクの懐刀のズレイマンという副大統領がいた。若い人が「ズレイマンでいい」と言う。私が「ズレイマンじゃ同じじゃん」というと、「あいつが懲りてなくて、また悪いことをす

ジャスミン革命と紫陽花革命の相似

次に「ジャスミン革命」と「紫陽花革命」の相似。個人の尊厳が省みられないことへの怒りがあつた。当時エジプトにはおまわりが威張っていた。エジプトで殴られるという状況があつた。昔からおまわりは威張っていたが、最近悪化した。特にテロ戦争以降は横暴が増したという話をよく聞いた。ふてくされて免許証を見せなかつたバスの運転手が引きずり下ろされて、警官に殴られたと

か。私が住んでいた頃はそういうことはなかった。ともかく、何を思っているも自分が生まれた頃から大統領が変わっていない。みんな悪いことだと分かっているが何も変わらないという閉塞状況。逆に政治的にすれている。世の中そんなもんです。

日本に移って考えると、官邸前になぜあんなに人が集まるのか。これだけの人が再移動に反対して、再移動の道理が立たないのに再移動する。人が膨らんだのは再移動が決まっただけ。今までの運動で考えれば、再移動が決まったら、運動は失敗と次の課題に移っていく。政治経験のない人が多い。俺をなめてるのかという気分がかなりあつた。エジプトと非常に似ている。これが二番目。第三に組織員は限定的。組織員がなければいい。基本的には自己決定の個人参加。70年半ばまでは労組の組織員があつたが、これもエジプトとよく似ている。

そして、従来の運動の収束、パターンと異なる結果状況。昨日(9月21日)を見ても、まだ数千人が集まっている。かつているような運動を振り返ると、夏バテの時期で、これだけ無茶をやられて、これだけ集まるのか。減ったのは事実だが、それでもよく集まっている。

こんな発想があるんだと、私は腰が抜けそうなくらいびびりしたことがある。6月29日、人が集まりすぎて、主催者がパニックで「帰って下さい」。それはいいが、それを指揮官車の上から言った。警察と打ち合わせていなければ、使えるわけがない。「こうなることを恐れていました」。

「おまわりの論理」が世間の論理にすりかえられて対象化しない。「これって支配の論理だよ」と、もう一回ひっくり返して考えない。錯誤だけど、多数派故に、そういうのに乗らないと運動が発展しないというところまで勘違いしている。それとジャスミンを一

今は土を起す段階

旧来の革命の綱領、戦略、指導部というのはいらない。役に立たない。役に立たないというだけではなく、「研究所テオリア」がそういうことを一生懸命考えても、旧来のパターンでは考えないと思いますが、一仮に考えても無駄なことだと思ふ。

私は新聞記者なので、いやでも現実には接するを得ない。新聞に出てくる表現は見聞きしたこと十分の一にもならない。現実を見たときに世の中というのはもつとひどくなっている。司会は年間3万人が自殺しているといつたが、そこを

なめてはいけない。いまの日本社会はヤクザ映画が蔵入りにしてしまつた。法律なんて守っていたら人間生きていけないということ。はしょっちゃうある。戦後、ヤミでの売買をみんなが当たり前にやっていた。その大人の当たり前が崩落してしまつた。その大人の当たり前が崩落した時代に革命論を語っても意味がない。新しい社会を構想する前提が崩落している。

まず、人を《洗濯》しないといけない。生地を鍛えないと、今の生地のまま縫い物をやると裂けて形にならない。そういう時代には

骨の髄まで支配されている。エジプトの場合は集まってるのに根拠がある。おまわりの暴挙と同時に、自分たちがダラダラ生きてきたのをやめよう、体張っちゃおうというテンションの高さがある。ムバラク体制は独裁政権であると同時に、自分たちが容認していたという自覚性があつた。自分たちが変わらなければ変わらない。

フランスのNPA(反資本主義新党)の人が書いた本で、そこに来てはいる活動家になせ来ているのかと聞く。『我が家のように感じて居心地がいい』と発言していた。反体制運動を考えると、『我が家のような空間』を醸成していくことが大切。

昔、「人民の核心としての党」という言葉をあり、いせりふだと思つていた。今は抵抗という欲望を喚起することが必要。人間回復の欲望を上品なことを言っていないで、どんどん喚起する。小さいことでもお上に文句をつける。そういう存在が社会が増えてくると、どうするとかいう次の段階の話ができる。今は土を起す段階。だから、一生懸命土を起こしていきたい。

田原牧(たはらまき)さん 東京新聞特報部デスク。同志社大学一神学教員。研究センター共同研究員。著書に『中東民衆革命の真実』(集英社新書)ほか



日本の脱原発運動とアラブ民衆革命の相似点

骨の髄まで支配されている

骨の髄まで支配されている。エジプトの場合は集まってるのに根拠がある。おまわりの暴挙と同時に、自分たちがダラダラ生きてきたのをやめよう、体張っちゃおうというテンションの高さがある。ムバラク体制は独裁政権であると同時に、自分たちが容認していたという自覚性があつた。自分たちが変わらなければ変わらない。

そして、従来の運動の収束、パターンと異なる結果状況。昨日(9月21日)を見ても、まだ数千人が集まっている。かつているような運動を振り返ると、夏バテの時期で、これだけ無茶をやられて、これだけ集まるのか。減ったのは事実だが、それでもよく集まっている。

こんな発想があるんだと、私は腰が抜けそうなくらいびびりしたことがある。6月29日、人が集まりすぎて、主催者がパニックで「帰って下さい」。それはいいが、それを指揮官車の上から言った。警察と打ち合わせていなければ、使えるわけがない。「こうなることを恐れていました」。

「おまわりの論理」が世間の論理にすりかえられて対象化しない。「これって支配の論理だよ」と、もう一回ひっくり返して考えない。錯誤だけど、多数派故に、そういうのに乗らないと運動が発展しないというところまで勘違いしている。それとジャスミンを一

なめてはいけない。いまの日本社会はヤクザ映画が蔵入りにしてしまつた。法律なんて守っていたら人間生きていけないということ。はしょっちゃうある。戦後、ヤミでの売買をみんなが当たり前にやっていた。その大人の当たり前が崩落してしまつた。その大人の当たり前が崩落した時代に革命論を語っても意味がない。新しい社会を構想する前提が崩落している。

まず、人を《洗濯》しないといけない。生地を鍛えないと、今の生地のまま縫い物をやると裂けて形にならない。そういう時代には

昔、「人民の核心としての党」という言葉をあり、いせりふだと思つていた。今は抵抗という欲望を喚起することが必要。人間回復の欲望を上品なことを言っていないで、どんどん喚起する。小さいことでもお上に文句をつける。そういう存在が社会が増えてくると、どうするとかいう次の段階の話ができる。今は土を起す段階。だから、一生懸命土を起こしていきたい。

「研究所テオリア」発足記念シンポジウム

グローバル資本主義の行方とグローバル対抗運動の課題

激動の時代の始まり、いま何をなすべきか？

白井 聡 さん

現代政治思想

3・11で露呈したこと

研究者の仕事としては、レーニンの研究をし、本を二冊出した。なぜレーニンかと散々聞かれたが、最近聞かれなくなった。著書で述べてきたのは、レーニンはすぐかかったということ。

2011年3・11を経て、今までやってきたレーニンに関する私の仕事は過去のものになった。レーニン自身やそれを受け継いだ人の問題の全てがすばらしく、たいていことはできない。それをふまえて、レーニンはすばらしかったし、革命が必要などがあるとして一生懸命言ってきた。3・11以降に生じたことは、僕がしつこく言ってきたことをはっきりと露呈させた。

「永続敗戦論」(atpプラズ)13、太田出版)で書いたように、ポスト3・11の状況で何が露呈してきたのか。僕の言葉で言えば、それは第二次世界大戦の敗戦で生じた問題が戦後そのまま積み残されている。負けたのに敗戦の事実をごまかしてきて、そのごまかしが冷静崩壊20年で効かなくなってきた。それなのに、我々はこの国が敗戦した事実を社会全体として、一般化できていない。直視できないがゆえに、逆に敗戦状態が続いてしまう。このまま続くとしてつけない不幸をもたらす。今日はそれに付け足す形で領土問題をお話します。日本の領土問題は3つとも敗戦の問題に関わっている。

「紫陽花革命」は似ている点もあれば、違うところもある。「紫陽花革命」という言い方はおこがましいと田原さんは言った。確かにそうかも知れないが、他方で77年生まれの私にとっても、35年生きてきて、「革命」という言葉が海外や昔の話ではなく、リアルタイムで言葉に上ってきたことが衝撃でうれしかった。「紫陽花革命」ということで革命が現役の言葉に復帰した。

3・11後、プライベートな事情もあって情緒不安定な状況もあって、こんな志が同じ人々が多くいると実感してうれしく思う。他方で政府、財界が本質的に変わらないうちに怒りがある。しかし、参加が少ない。



田原さんの言っていたとおりの「紫陽花革命」

内在化している

「おまわりの論理」

大学で学生を教えていると、ちょっと理解を超えているところがある。大学でも予定を大幅変更し自分も勉強して、授業で原発問題などを教える、なんていう国に自分は住んでいるのかと感じるようになる。一方では、こんなに反応がないのかと驚かされる。

デモに参加すると、老若男女が参加している。僕くらの年代が多い。僕の実感としては若者が少なすぎ、大学生の参加者が少ない。人口構成の問題があるか、学生は勤め人に比べれば時間の自由がある。しか

と「おまわりの論理」は同じ。「おまわりの論理」というのは秩序。世の中で一番大事なのは秩序が整っていることだ。結局のところ、世間一般とおまわりの論理は同じ。

こうした空気は、中国における反日デモに対する見方でもはつきり現れている。今日テレビをつけていたら、日中関係の討論番組をやっていた。解説者が反日デモというのは反日という要素がありながら中国の政治体制への不満があつて暴発したり、ガス抜きしたっているのだ。この見方は必ずしも、間違っていない部分がある。

問題は、この後、解説者は何を言っていたか。《中国は内部に矛盾を抱えている、年間10何万件も暴動・擾乱が起きている》。つまり、乱れた社会なのだ。中国に対する日本の見方では、擾乱・暴動が年10何万件を起きているような国だから反日を口実に暴動が起きているのだ。

しかし、見方を変えれば中国は民衆の不正に対する抗議行動、民衆の権利要求が盛んに行われている国だと見ることができ。ところが、日本の見方では10何万も抗議行動が起きている中国はダメな国、しょうもない社会だと見なすことが一般化している。これが日本人の多くが内在化している「世間の論理」。「おまわりの論理」これを変えずに現実の中で「世間の論理」

簡単なことで、「おまわりの論理」である「世間の論理」を内在化している人間が一度デモに足を運び、現実を見れば、自然と秩序が崩壊する。空気をどう変えるか。そのなかで語った方だと気づくことが多いのではないかと、楽観視できる。日々感じている。

敗戦問題としての領土問題

領土問題

領土問題の噴出の中で敗戦の問題は待たないの質問として現れざるを得ない。あれだけのことが起きているのに、戦争になるかもしれないというリアリティが一般的に感じられていない。教えている学生にも中国の有力紙が何を言っているか、討論番組で何が言われるのか、ネットで調べてみないと、とよく言っている。「開戦」の二文字が踊っている。

歴史上、領土問題は簡単に戦争を引き起こしてきた事実がある。1960年代、中ソで川の中州をめぐる戦争になった。川の中州に経済的価値はないが、互いに核兵器をスタンバイさせた。イラン・イラクでも国境線の川をめぐる戦争になった。イラク側の川岸が国境線か、川の中間線が国境線か、それで100万人以上死ぬ。それだけで戦争になったわけではないが、きっかけはそう。恐ろしいことに自民総裁選挙の候補者たちが選挙期間中に

に言っていたことを首相になってそのまま実行した。間違いなく戦争になる。では、私たちは大前提として認識すべきことを押さえてほしい。私が考える一番ベーシックな論点です。領土を確定する要因は何か。結局、暴力、国家間の戦争。いつの戦争かという第二次世界大戦。第二次世界大戦という暴力で決まった空間秩序というのが日本の領土を規定する。「尖閣」も「竹島」も「北方領土」も共通点は第二次世界大戦の戦後処理の問題。日本にとって負け戦をどう処理するかという問題。

その後、主権回復を経て確立した原則は、日清戦争以降の領土は帝国主義的侵略の結果だから放棄する。日清戦争以前の領土に限定する。

そもそも、ポツダム宣言の決定をする「われら」は誰か。中国も含まれていたが、蒋介石の中華民国から共産党の中華人民共和国に変わる。そして、ポツダム宣言の「われら」には韓国が含まれないことになる。

ポツダム宣言の原則に基づいてサンフランシスコ講和条約(51年)が結ばれるが、ソ連は出席するが調印しない。中華人民共和国のほうは呼ばれない。韓国はアメリカからくるなどいわれて来れない。アメリカと日本は話がつくが、他の国々とは話がつかない。そして、沖縄をアメリカが統治する。「尖閣」は沖縄の工リアにあつて、ストリートに日中間の問題にはならなかった。沖縄返還決定を機に、1971年中国が領有権を主張する。

明治時代初期はどちらの領土かはっきりしない。清なのか日本なのか。はっきりしたのが日清戦争。台湾の獲得とセットで日本領土であることが確定する。だから、原則から見るとどこまで獲得したか。帝国主義で獲得したと言いつてもいいかもしれないが、そういう要素は多くはない。だから、1972年日中国交回復では棚上げするこ



領土問題の根底に敗戦問題がある＝中国の釣魚島国有化抗議デモ

とて妥協が図られる。ずっと棚上げでやってきたが、それを破ったのは2010年漁船衝突事件。前原国交相(当時)が日本のデュープロセスに基づいて処理すると言出した。「棚上げをやめる」というメッセージを出した。根本的態度変更のとおりの。

北方領土問題の発明

次に「北方領土」問題。

歴史的に見ると、1875年、日本とロシアは樺太千島交換条約を締結した。その後、日露戦争があつて、45年ソ連が大戦末期に参戦して、9月5日までかかって南樺太、千島を占領する。降伏文書は9月2日に調印しているから、火事場泥棒的。

52年、日本はサンフランシスコ講和条約で千島と南樺太を放棄する。ソ連は調印していないので、56年日ソ共同宣言を結んだ。

日ソ共同宣言とはどういう内容か。千島は2島返還であり、6条と9条。第6条は、要するに過ぎたことはお互いごちゃごちゃ言うのをやめ、現状肯定する。過ぎたことというのは、ソ連から見ると日本のシベリア出兵、日本から見ると戦争末期の参戦、シベリア抑留、それらを互いに水に流そう。

第9条は、日本は抗議できない道理だが、ソ連は勝者の寛大さで歯舞、色丹を

分けてあげようという論理構成。56年当時において、日ソの国力の差が大きかったがわかる。鳩山一郎首相(当時)は、これをのんで2島で我慢して平和条約を結ぼうとなつた。

ここで「ダレスの呪い」が起きる。アメリカ国務長官ダレスがソ連と仲良くするのはいけからん、ソ連と平和条約を結ぶのならば沖繩は永久に返さないと恫喝した。日本政府は沖繩をとりこぼすを得ない。しかし、サンフランシスコ講和条約

領土問題は解決しなくていい

次に「竹島」問題とは何か。1905年、日本が「竹島」を支配する。1952年発効のサンフランシスコ条約が定める放棄する朝鮮半島の島には「竹島」が含まれなかった。

同条約第二条(a)「日本国は、朝鮮の独立を承認して、済州島、巨文島及び鬱陵島を含む朝鮮に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。」

「竹島」は放棄してないこととなる。これに韓国は不満で、52年李承晩ラインを設定。53年実効支配を始め、現在に至る。

これも1905年に日本が実効支配を確立したというところが核心。日露戦争の関連性で実効支配を開始したという解釈になるなら、日本の戦後処理の原則

「中国は一つ」というのは漢字のようなもの。漢字は表意文字で、「中国は一つ」というのは言葉は同じだが、それをどう読むのか、解釈するのは自由。

「中国は一つ」というのは漢字のようなもの。漢字は表意文字で、「中国は一つ」というのは言葉は同じだが、それをどう読むのか、解釈するのは自由。

だから、「尖閣」問題について中国は解決ならざる解決を持ちかけて、日本の保守政治家は了としてきた。

互いに自国領だと叫びながら、互いに叫んでいることは許容する。

いま領土問題を解決しようという機運が高まっていく。

浅井基文はネット上の論説で「日本が本気で竹島問題解決をICJ付託によってめざすならば、尖閣、北方四島についても付託の用意があることをあらかじめ公表すべきだ」と指摘している。

外務省は「竹島」も「尖閣」も北方四島も「固有の領土」だと言っている。

だったら、解決の仕方も同一でなければならぬ。

一つの問題ではICJ付託を主張して、他の問題で拒否するのはダブルスタンダード。ICJ付託したら全敗する可能性もある。だから、できない。領土問題は敗戦の否認という問題の表れ。

同系統の敗戦の否認の問題としては拉致問題がある。解決できないだけで、多国籍交渉で日本は相

手にならなくなってきた。今年9月17日で10年経つピョンヤン宣言には問題があった。北朝鮮は、拉致問題は解決済みとしている。

ピョンヤン宣言で関連するのは二項、三項。二項は日本の植民地支配に関する問題を扱っている。国交正常化は日韓国交正常化と同じ。金は取るが、日本を植民地支配に引き戻すという機運が高まっていく。

もちろん、拉致問題は重要な問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

手にならなくなってきた。今年9月17日で10年経つピョンヤン宣言には問題があった。北朝鮮は、拉致問題は解決済みとしている。

ピョンヤン宣言で関連するのは二項、三項。二項は日本の植民地支配に関する問題を扱っている。国交正常化は日韓国交正常化と同じ。金は取るが、日本を植民地支配に引き戻すという機運が高まっていく。

もちろん、拉致問題は重要な問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

当時反対だったといつてもしょうがない。そして、安倍が首相になってから、北朝鮮としては問題が蒸し返されて、日朝交渉はほとんどこじれた。

もちろん、拉致問題は重要な問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

ま、当時の世論は重要問題。日本の世論の問題としては、北朝鮮の非道を批判する。一方で、ピョンヤン宣言は日朝国交正常化の第一歩になるはずだ。ピョンヤン宣言に第二次世界大戦の戦後処理の性格があることを認識できていない。北朝鮮の側から見

れば、日帝植民地支配と数十年前の拉致のどちらが重いんだという理屈を向こうは持っているわけだけ。そういう理屈を持っていて、段々人が拡散して国会正門前が多い。田原さんがエジプトに関して分析している状況に似てきている。革命青年に新旧左翼が加わって、最後に宗教勢力が加わってという話でした。日本の状況も似てきていて、SNSで集まった運動経験がない人に、党派が加わっている。ここで創価学会でも乗ってくれば(笑い)面白くなるという話。もちろん、そうならば変なことなる可能性があるという話。でも、猫の手も借りた状況。何とかするしかない。

そういう流動的な状況から新しい権力構造が出てきたら、いいものである保証はない。そうなら、日本もエジプトと同じでまたやるしかない。そうなら、ほしいところも思っている。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

白井聡(しらい・さとし)さん 現代政治思想。文化学園大学教員。著書に『未完のレーニン』(講談社)。

国連・憲法問題研究会報告53集 原発事故避難問題から見える 福島の実状 阪上 武

定価 500円 発行 国連・憲法問題研究会

講座テオリア開講のお知らせ

第1期

「シリーズ・グローバル資本主義の行方」

研究所テオリアは、9月22日に「グローバル資本主義の行方とグローバル対抗運動の課題」と題してシンポジウムを開催しました。予想を超える多くの参加者を得て、無事研究所は発足しました。このシンポジウムの議論を承けて、研究所はこの秋から「講座テオリア」を開講します。講座は、単発的なテーマではなく、半年から1年は続く継続性のあるものを目指します。また、講座の1か月前には予習のための研究会を開き、論点の掘下げと議論の活性化を図ります。

12月開講予定の講座第1期は「シリーズ・グローバル資本主義の行方」です。2008年の米国のリーマン・ショック以降、「百年に一度の危機」と呼ばれるほどに世界に波及したサブプライムローン危機。それは今も欧州ソブリン危機（債務危機）という形で継続しています。グローバル経済の金融化はどのような仕組みで拡大したのか？そしてグローバル資本主義は経済危機からなぜ逃れられないのか？ 英国出身で現在は米国の大学で教鞭をとる経済地理学者・マルクス経済学者のデヴィッド・ハーヴェイの『資本の謎』——世界金融恐慌と二世紀資本主義（作品社）などを手がかりに、研究者の講演をお願いする予定です。

経済のグローバル化は、各国間の経済的な依存度を著しく高めました。グローバル化の波に乗り、貧困からの脱出を図る発展途上国も出てきました。世界大の貧富の格差、南北問題は経済のグローバル化によって克服されるかもしれないという幻想がありました。しかし実際に進んだのは、いわゆる「先進国」における産業（製造業）の空洞化による失業の増大、工業地帯の経済不振・貧困化であり、いわゆる「途上国」における都市と地方の経済格差の拡大です。一握りの大金持ちがさらに財を蓄え、他方で中間層の解体・縮小が進行しています。生活の最低水準を割り込む貧困層

も目に見えて増大しています。円高のために日本の製造業も生産拠点を中国など人件費の安い国に移転しました。シャープの亀山工場のように、高付加価値をつけて生き残りを図った企業も、さらなる円高攻勢に今や再編を強いられています。経済のグローバル化・円高・産業の空洞化。現在も進行中の事態を冷静に分析し、将来社会の構想を練りあげる。この課題に挑戦します。

リーマン・ショックの日本への波及は、まずは製造業における操業停止・生産調整となって現われました。これにより、小泉政権が製造業における派遣労働の解禁（法改正）を行なったことを背景にして、いわゆる「派遣切り」「雇止め」が急速に拡大しました。2008年の年末から翌年の初頭まで東京の日比谷公園で組織された年越し派遣村は、私たちの記憶に新しい出来事です。日本の労働法制と雇用の在り方は、この10年で激変しました。そして民主党政権下でも雇用情勢・雇用システムに大きな改善は見られませんでした。これからの日本社会における人びとの働き方はどうなっていくのか？ 雇用法制・貧困問題・社会的排除などをキーワードに、このテーマを探ります。

また、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）は、加盟国の関税の撤廃を通じて自由貿易協定の推進を謳い、日本の経済成長と社会の再活性化を目指すものとして注目されています。日本が加盟することで私たちの生活世界は激変します。食の安全性や雇用の在り方、さらには医療や保険制度まで、米国の主導のグローバル企業に席巻される危険性があります。日本の関税を撤廃し、自由貿易をさらに進めることは、誰にとってメリットのあることなのでしょうか？ TPP加盟によって私たちの生活世界はどのような変容を余儀なくされるのか？ 識者を招いて議論します。

グローバル資本主義はこの20年間、さまざまな矛盾や危機を世界中にもたらしました。90年代のアジア通貨危機、そして現在進行中の欧州債務危機が典型的ですが、そうした経済危機に對して民衆は、これまでどのような抵抗とオルタナティブを組織してきたのでしょうか？ 世界社会フォーラムやG8サミットに対する抗議行動がもう10年以上の歴史を重ねています。ウォール街の占拠闘争（オッキューパイ・ウォールストリート）も私たちに強い印象を与えました。そうしたさまざまな街頭抗議行動や国際シンポジウムに加え、人びとが自発的に対抗的経済圏を組織する実験に着手しています。それは地域通貨の発行であったり、住宅闘争の一環としての公共空間の占拠だったり、水道・ガス・電気などの生活の中で主張しかけてき

対抗運動としての新しい社会運動の現状と可能性について検討します。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

研究所テオリア
【第1回講座の内容は1面に掲載しています】

19世紀から20世紀にかけて様々な大思想が繰り広げられ、「世界の問題は理論的には既に解きあかされた」と信じられていた時期もありました。

しかし、20世紀末には未だの解答だったはずの社会主義諸国が崩壊。それは必ずしも資本主義の成功をもたらさず、今世紀に入っ

い、日本の経済成長と社会の再活性化を目指すものとして注目されています。日本が加盟することで私たちの生活世界は激変します。食の安全性や雇用の在り方、さらには医療や保険制度まで、米国の主導のグローバル企業に席巻される危険性があります。日本の関税を撤廃し、自由貿易をさらに進めることは、誰にとってメリットのあることなのでしょうか？ TPP加盟によって私たちの生活世界はどのような変容を余儀なくされるのか？ 識者を招いて議論します。

インフラを住民自治・共同体自治によって整備する取り組みだったりします。いまやこうしたグローバル資本主義への対抗運動は、文字通りグローバルに、全世界に拡大を見せ始めています。社会運動の研究者を招いて、こうしたグローバル

対抗運動としての新しい社会運動の現状と可能性について検討します。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

研究所テオリア
【第1回講座の内容は1面に掲載しています】

たことを、改めて振り返り検証しなおしてみることが、今こそ求められているのではないのでしょうか。またその中で経験し知っていたこと、つかみ取ってきたこと等を人々に伝え共有し継承していく、という時代的・世代的な責任も負っているのではないのでしょうか。

20世紀思想の大きな指標となったマルクス主義は、貨幣の「物神性」を説明することには成功しましたが、一方で近代や進歩、科学技術の「物神性」はあはき出せないままに來ました。それを突きつけるフェミニズムやエコロジーなどを始めとする新しい思想も芽生えています。この研究所では、それらを豊かに展開していく作業に取り組みたいと思います。

また、新たに立ち上がるうとして環境政党は「社会的公正と循環型社会」という二つのテーゼを掲げていますが、それらの関係等をさらに深く考察

していくという課題も私たちのめざすものです。

この研究所は、学習会、講座「座標塾」、スタディーツアーなどの企画、また新聞やブックレットなどの出版活動を当面は担うことになりま。思想や理論分野に限定されたさやかなものかもしれない。

しかし、これまでの民衆闘争の歴史は、常に時代を切り開く理論や思想と共にあったことを思い起こすならば、これもまたとても重要な領域です。この研究所も微力ながらその一翼になうことをめざしたいと思います。

「研究所テオリア」 参加の呼びかけ

【呼びかけ人から一言】

●西葛西善蔵
関心対象は、①危機論の再構成。マルクス主義の危機論は時代遅れだと80年代には葬られたが今や複合的な危機の時代。グローバル金融資本主義の不安定性を分析できる政治経済理論の探究が不可欠。②ポスト・モダンの共産主義思想の復権。同志スフヴォイジエックと同志アラン・パディウの思想に注目。

●谷島修一
研究所でやりたいことは、現代資本主義＝新自由主義、金融資本主義など経済の問題を中心に、税制、社会保障制度等の国際比較から日本のそれを批判的に分析する。

●繁山達郎
「3・11」によって日本列島の社会運動がどのように変革し展開していくのか注目しています。

●滝川一郎
長野の地から参加します。「来し方行く末」という言葉がありますが、新しいことを始めようとするときも、自分たちが、どういった経過をたどって、今日ここにいるか、という継続性を大事にしたいと思っています。

●西村光子
社会を変革したいと一生懸命努力してきたのに——しかも、その欲求の根源は決して少数派のものではないか——何でこんな世の中になってしまったのか？ いま起こっていることが何を意味するのか、ちつとも読めない。

●吉田和雄
私たちにたいした知恵も力もありませんが、現在の日本国家の政治、社会、文化が抱える問題と正面から向き合う志だけは持ち続けたいと思います。

●元豊田 平
そんなことを願いなから、呼びかけ人の1人として名をのべています。

●元豊田 平
身はたとひ緑の野辺に朽ちぬとも留め置かまし赤き魂

●元豊田 平
思想理論なるモノを扱うと、長文・洋学が重きをなします。そこをワンフレイズといかないまでも何とかしたい。世間は経営者や金銭的成功者の言行に拝跪しがちです。それに従い追われ、行き着く先はメンヘルや自死。時は今、人々をあまねく照らす、連帯経済と社会的包摂の美しきつつし世を望みます。

グローバル金融資本主義の「危機」の時代に求められるもの

——「共産主義の理念」をめぐる——

第1回

西 葛 西 善 蔵

はじめに

この数年ヨーロッパ現代思想のリーダーたちが「共産主義」を掲げて評論活動を展開していることをご存知ですか。共産主義？ そう、共産主義です。

始まりは2008年、まづフランスで毛沢東の『実践』『矛盾論』を二冊にまとめた選集が刊行。編者はスラヴォイ・ジジエク（1949年生まれ）。そこにジジエク宛ての書簡を掲載したのがアラン・バディウ（1937年生まれ）。『主体の理論』（1982年）や『存在と出来事』（1988年）、『世界の論理——存在と出来事その二』（2006年）などの本格的な哲学書を執筆する人です（大学の哲学教授を歴任）。

バディウは1968年パリ五月革命に積極的に参加した毛沢東主義グループのリーダーの一人として、先行世代の左派思想家たちをその日和見主義の廉で罵倒してきた極左活動家でもありました。哲学者シル・ドゥルース（1925年生れ）

のゼミに押しかけて、ドゥルース教授を論破、聴講していた学生たちの度肝を抜いて、彼らを街頭デモに連れて行ってしまったという逸話が残っています。

今ドゥルースの名前を出しましたが、いわゆるポスト構造主義者と呼ばれたフランスの左派思想家たちがみな亡くなってしまい（ミシェル・フーコーが1984年に死去、ドゥルースが95年に死去、そしてジャック・デリダも2004年に死去）、フランスの思想界がリーダー不在の空白時代に移行した後、活発な論陣を張ったのがアントニオ・ネグリ（1933年生まれ）、バディウ、そしてジジエクの3人です。ネグリもジジエクもフランス人ではない所にフランス文化のヘゲモニー低下を見て取ることでできるかもしれません。

アイデアの復権

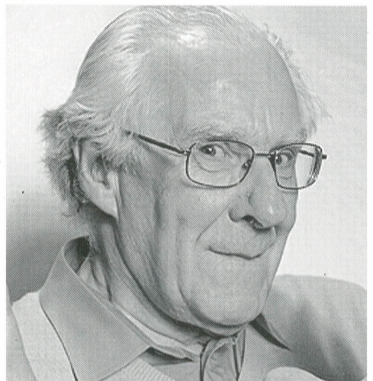
さて、上記のバディウが2009年にフランスで刊行したのが『共産主義という仮説』（リーニエ出版）です。序文も含めると5つの

章からなります。翌2010年に出版された『ポストモダン共産主義』（栗原百代訳、ちくま新書、2010年）です。現代思想を知的エンターテインメントにしてみせた人物として、

本書の特徴を挙げます。まず、1948年に刊行されたマルクス・エンゲルスの『共産主義者宣言』への言及がほとんどないこと。48年革命は、21世紀の社会変革のモデルにはもはやなりえないということなのでしょう。

次に、1917年のロシア革命への言及もほとんど見当たりません。レーニンへの言及も、むしろバディウは、パリ・コミューン（1871年）——プロレタリア文化大革命（1966年—77年）——パリ五月革命を「なにか」を現代における共産主義の理論（アイデア）として復権したのでしょう。その「なにか」とは何か？

ここで性急にその答えを出すことはせずに、もう少しこのかん状況の紹介を続けましょう。



アラン・バディウ

スロヴェニア出身の哲学者ジジエクがバディウの問

題には、共通点も多いのではないのでしょうか。

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。

そのジジエクが、共産主義思想の復権に向けてどんな発言をしているのか。ジジエクはバディウと違って、レーニンを高く評価し、バディウとスラヴォイ・ジジエクだからでしょう。このシンボルの記録が2010年にヴァーン出版（イギリスの老舗左翼誌『ニュー・レフト・レビュー』の出版社です）から刊行、フランス語版はそれに少し先立つよう初夏に刊行されました。コスタス・ドゥズイーナス＋スラヴォイ・ジジエク編（長原豊監訳、沖公祐＋比嘉徹徳十松本潤一郎訳）『共産主義の理念（水声社）』です。

フランス語版の編者がジジエクと前出のアラン・バディウになっていくように、このシンボルの事実上の中心は、バディウとジジエクだと考えて良いでしょう。

「問題は、共通点も多いのではないのでしょうか。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

「問題は、革命の「大義」への忠誠を日和見主義的に裏切ることなく後退するにどうしたら良いのかということだ。……レーニンはこう結論する。『幻想を抱かず、失望に屈せず、強靭さを保って、きわめて困難な課題に、そもそも始めに何度でも立ち戻って』取り組んでいく、そんな共産主義者は失敗を免れる（そしてきつと滅びることもない）。／これをベケット的な本領を發揮したレーニンにしてみせた人物として、今や英語圏で多大な人気を誇るジジエクですが、その持ち味は抜群の読みやすさと話題の豊富さです。その魅力は本書でもいかになく、48年革命は、『共産主義者宣言』の結論を「さばっさ」と斬りまくります。この人の手にかかればあらゆる問題が、まずは思わず笑ってしまおうような滑稽な事態として把握され、次いで現代資本主義の深刻な危機の「徴候」として分析・暴露されるのです。」

反国家主義の主張

「共産主義の理念」のプラトン主義による基礎づけ。これがバディウの共産主義仮説の1点目の特徴である（80面へ続く）

政府自らが法律すら踏みにじり 原子力規制委員会を発足

(独)日本原子力研究開発副理事長時代は「もんじゅ」の推進を行い、原子力委員会の委員長代理時代には原子力事業者との秘密会合に出席していた強力な原発推進者であった。

「年間100ミリシーベルトは健康に大きな影響がない」と発言。福島原発の避難者への賠償に真向から反対。帰還基準を年間20ミリシーベルトとし、これを少しでも下回れば1ヶ月程度で賠償を打ち切るよう主張。これらの言動は原発に対する市民の不安を増幅させるものでしかなく、多くの市民が官邸前や準備室の置かれた省庁前等で連日のように反対運動を展開した。

「就任直近3年に、原子力事業者及びその団体、従業員等であった者は欠格要件とする」ことは、国会答弁、それに基づく政府ガイドラインで明確にされているが、田中俊一氏、更田豊志氏、中村佳代子氏はこれに違反する。

また、委員の任命は国会の同意が必要であるにもかかわらず、それを無視して野田首相が任命した。自らが関与してつくった法律すら踏みにじったのだ。

規制委員会の仕事の第一歩は、安全基準を満たさず再稼働した大飯原発を止められない。私たちはそれをはつきり主張し、しっかりとみていこう。

民主主義のかけ らも踏みにじら

原子力規制委員会設置法は「国民の信頼の回復」「規制と利用の分離」「原子力ム

原子力規制委員会は、原発の安全基準の決定に加え、再稼働の是非をも事実上決定する。現在問題になっている除染やがれき処理の方針も左右する。今まで様々な省庁に分散されていた業務を一元化し、日本の原子力行政の安全性の全てについて責任を担うことになる。

100ミリSv安全 と公言する 委員長

9月19日に発足した規制委員会の5人の委員は、少なくとも4人が原子力ムラから金を受け取っていた。委員長の田中俊一氏は、



原子力規制委員会人事に抗議

「地域の管理・施設化」は 超えられるのか (上)

駆けつけるのは専門職ばかり

「地域」が「管理・施設化」される。それは、精神疾患の病棟が「管理・施設化」される。それは、精神疾患の病棟が「管理・施設化」される。それは、精神疾患の病棟が「管理・施設化」される。

「普通」の呪縛。精神障害が「普通」になる。それは、精神障害が「普通」になる。それは、精神障害が「普通」になる。

「権利回復」が、なぜ「サービス」か。病気の「権利回復」が、なぜ「サービス」か。病気の「権利回復」が、なぜ「サービス」か。

「利用者・契約本位」の胡散臭さ。利用者本位の「契約本位」の胡散臭さ。利用者本位の「契約本位」の胡散臭さ。

「7面から続く」。7面から続く。7面から続く。7面から続く。

「地域」が「管理・施設化」される。それは、精神疾患の病棟が「管理・施設化」される。それは、精神疾患の病棟が「管理・施設化」される。

「普通」の呪縛。精神障害が「普通」になる。それは、精神障害が「普通」になる。それは、精神障害が「普通」になる。

「権利回復」が、なぜ「サービス」か。病気の「権利回復」が、なぜ「サービス」か。病気の「権利回復」が、なぜ「サービス」か。

「利用者・契約本位」の胡散臭さ。利用者本位の「契約本位」の胡散臭さ。利用者本位の「契約本位」の胡散臭さ。

「7面から続く」。7面から続く。7面から続く。7面から続く。